

来場者に好評を得て次回の開催が待ち望まれる展覧会



新たな芸術文化の再出発へ

御船町・美術・工芸協会・展覧会

町内でアートを愛する美術家や陶芸家など有志20人の作品展覧会が10月19日～27日まで、カルチャーセンターアートホールで開かれました。作品は、絵画や陶芸、木彫など約40点。展覧会はこれまで、町文化祭の展示絵画部門で行われ、開催時期を前倒しで実施。しかし近年、出展者が増加したことなどから、独立しての展覧会となっています。有志メンバーの竹田津純さん(辺田見)は、「多くの町民が芸術に入りやすい環境にしていきたい。町の芸術文化を掘りおこして、底辺を拡大していければ」と話していました。

地域の元気を分館から発信

東部地区スポーツフェスタ

田代地区の田代東部分館広場で10月24日、スポーツフェスタが開かれました。地域の活性化や幅広い住民が参加できるイベントにと、田代東部分館(高松秀行館長)が主催して、今年で2回目。競技は6つの区を4チームに編成した対抗戦で、約300人が参加。竹をノコギリで切る「与作」や、夫婦共同の種目「熱々カップワン」など、ユニークな競技に会場から笑いと歓声が沸きおこっていました。参加者の吉澤テルコさん(87歳)は、「地域の人が集まって、日ごろ会わない人に会えるのが楽しみです」と目を細めていました。



力自慢競技「与作」で1位に輝いたのは浅の藪と間所の合同チーム

豊富な本と楽しい交流空間へ

みふねデコボコ会が地域交流

特定非営利法人みふねデコボコ会(寺本京子代表)が事業拠点としている御船町交流センター(高木)で10月20日、子育てサークル「すまいるママ」を招いて交流を行いました。同会は、知的障がい者と一緒に町内の保育園や小学校、学童保育などを訪問して、絵本の読み聞かせなどの地域交流を展開しています。また今年3月、伊藤忠記念財団の子ども文庫助成を受けて、絵本約60冊とパネルシアターなどを購入。幼児向けの絵本約1,500冊を豊富に揃え、本の貸し出しも行っています。寺本代表は、「本の貸し出しは平日の午前10時～午後5時まで誰でも利用できます。また毎月第1・3水曜は施設を開放しています。もっと多くの地域の人に利用してもらいながら、交流を深めていければ」と話していました。



乳幼児たちの視線を釘づけにしたパネルシアター

楽しく健康にいい吹矢運動

スポーツ吹矢大会

手軽な健康運動で注目されるスポーツ吹矢のフネッピーすこやか大会が10月10日、スポーツセンターで開催されました。会員の親睦や普及啓発を目的にフネッピーすこやかスポーツクラブ(竹内昭剛会長)が主催。競技は段や級に応じて、6～10歳の的を狙う個人と団体戦。腹式呼吸で精神を整え、直径33mmの的をめがけて矢を5本放ち、合計得点を競いました。大会運営にあたったスポーツ吹矢熊本県御船支部の梶原光生支部長は、「総合型スポーツや公民館活動でスポーツ吹矢の普及を図っていきたい」と話していました。



全国で競技人口約2万人を誇り人気急上昇中のスポーツ吹矢

かすらで魅了した和の世界

月岡玲子さん「かすらアート」個展

かすらを使った芸術家で知られる月岡玲子さん(田代)が10月19日～24日まで、県伝統工芸館(熊本市)で「和とかすらのコントラスト」と題した個展を開催しました。作品は、かすらを斬新に編み込み、色鮮やかな造花などで飾りつけた35点。個展の開催は、6年ぶり6回目。材料のかすらは、近くに住む松原公生区長が提供した地元の木戸屋産を使ったものです。個展に祖母の牟田勝子さん(御船)と来場していた孫の侑未さんは、「色使いがきれいで、花の組み合わせもいい。自然のかすらで造られていて、親近感があります」と目利きの評価をくれました。月岡さんは、「2年前から個展をうちだし、無心で作品づくりに取りかかりました。今回の個展は、いろんな方と知り合え、これまでで一番感無量」と感慨深く話していました。



6日間で約700人を動員して来場者の心を温かくもてなした個展